news letter 遊文通信

より進化したシステムで…

2014年4月発行

Vol.

35

2013年12月に遊文舎のワークフローシステムが大きく進化しました。

近年お客様のご要望が多様化し短納期化しています。また、遊文舎通販サイト "すぐスール" での受注も大幅に伸びています。そういった要素を精査し決定したシステムが富士フィルム様が提唱している FUJIFILM WORKFLOW **xmf**です。

今回、xmf と同時に採用した物が完全現像レスの刷版(印刷機にセットする版) XZ-Rです。

xmfって?

最大の特徴はいつでもどこでも誰もが同じ画面で<mark>進捗状況を確認</mark>できることです。

たとえばお客様が自社の製品の進捗を社内に居ながら確認出来たり、iPadのようなタブレットを使ってオンラインで校正指示を入れたり出来ます。これにより「出張や打ち合わせなどで移動が多い」「深夜しか時間がとれない」、また「離れたパートナーと同時進行で進めたい」など多忙なクライアント担当者様でも、インターネットで随時校正作業が行なえます。

また、3D技術で作成された冊子の仕上がりイメージをタブレットやパソコンを使って確認したり出来ます。もちろんページもめくれますよ! 面白いと思いませんか?

ただ、現時点では完全なシステム構築が出来てませんので、すぐ にご利用頂く事が出来ないのが残念です。システムが完全に使用可 能になりましたらお知らせしますので今しばらくお待ち下さい。

以外の特徴は、やはりスピードアップが図れる事です。データ処理時間、刷版出力時間などが倍速ほどの速さになりました。また、出力データ作成も非常に柔軟な対応ができ、たとえば急な印刷機の変更などにもフレキシブルに対応可能です。

それ以外にも PDF データの不備をチェックする機能やその PDF を出力に安全な PDF に変換したりと様々な機能が充実しています。

その他、クライアント様にメリットのある内容としては<mark>高精細300線の印刷が可能</mark>になった事です。通常のカラー印刷では175線という網を使いますが、300線の網で印刷すると点が小さい分なめらかな仕上がりになります。

XZ-Rって?

"FUJIFILM WORKFLOW xmf"と同時に遊文舎では新しい印刷刷版 "XZ-R"の導入を決めました。この刷版は完全な現像レスで現像液を使用しない非常に環境にやさしい刷版なのです。"現像レス"が言われはじめて5年ぐらいになります。当初、現像レス刷版で印刷すると汚れが発生したりトラブルの多いものでした。メーカーサイドでさえ「おすすめは出来ません」と言っていたぐらいです。その後改良が加えられ昨今ようやく実用に耐えられる版となったのです。とは言え多少導入の怖さもありました。導入当初は印刷現場も不慣れなため若干のトラブルはありましたが、メーカーの協力(指導)を受け今では何の問題も無く印刷出来るようになっています。環境汚染以外で現像しないメリットは何かと言うと印刷アミの再現が均一になると言う事です。現像液の状態によって左右され

る網点のフレが無いのです。すなわち色再現も安定すると言う事に なります。

デジタル印刷

以前より富士ゼロックスの Color1000Press と言うカラーオンデマンド印刷機を導入していましたが、仕上がりが綺麗でクライアント様に好評で受注が大きく伸びたため一台では対応が難しくなり、この度二台目として Color800Press を導入しました。今後も増え続ける小ロット短納期にもより一層スムーズに対応できるようになりました。

今後もクライ<mark>アント様の要望にお応え出来るように全社あげて努</mark>力を積み重ねていきますので末永くお付き合いいただければ幸いです。

(風帆)







搬入風景



[大阪本社] 〒532-0012 大阪市淀川区木川東4丁目17-31 TEL: 06-6304-9325(代) FAX: 06-6304-4995 [東京営業所] 〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目29-10 TEL: 03-5802-3815

FAX: 03-5802-3816

http://www.yubun.co.jp/ E-mail info@yubun.co.jp

社員の趣味第6弾 俳句始めました!



私は古稀(70歳)近くなってから俳句を始め、いま夢中になっている。

2年ほど前に『薔薇の行方』という俳句集を印刷させていただいたご縁で、作者の大 形順子先生に誘われ、それまでは俳句といえば「柿食えば鐘がなるなり法隆寺 子規」く らいしか知らなかったにもかかわらず、また初心者の気後れをものともせず、月1回の句 会にいそいそと出かけている。

震災の報せテレビに春の行く 大形順子

『薔薇の行方』は句集というよりエッセイ集というほうが似合うような作品であり、大 形先生の日々の暮らしのなかに生じる四季おりおりの風や光や生き物たちが心象風景とし て語られ、それらが五七五の十七音に昇華されていくプロセスが手に取るように分るよう になっている。俳句とはまったく無縁であった私の目からウロコが落ちたのである。

驚くことに89歳まで現役で眼科医を開業してこられた先生は、92歳の今もかくしゃく として句会の首座を務められ、長年の句友の皆様もほとんどが80歳以上ということで、私 など若者扱いしていただけるのも心穏やかに時を過ごせる一因になっている。

コスモスに屈む大地の息吹かな 田口由子

先日、倉庫を見ていたら遊文舎でもいろんな句集を作っているんだな、と見過ごして きた迂闊を悔しく思った。なかでも制作 M さんの知人、田口由子さんによる『木守柿』 には、感銘をうけた。

昭和56年から平成20年まで30年あまりの句に、お孫さんがふさわしいイラストを書き そえて、米寿のお祝いにと出版されたものである。彼女の「あとがき」は尊敬するお祖母 さんの凛とした作句の姿勢、生きる姿勢を彷彿とさせる。

別の句集を豪華版で出版されたWさんは、「これは兄の日記だ」とおっしゃっていたが、 本当に句には人の性(さが)がでてしまうものだ、と最近やっとその奥深さが分りかけて きたところである。

放哉の句碑に島柿熟るるまま

昨年は小豆島に旅行した際に尾崎放哉記念館を訪ねた。放哉といえば「咳をしてもひ とり」が好きな句。また、今年は6月に新潟県に行くので、出雲崎の良寛記念館を訪ねる つもり。「散る桜残る桜も散る桜」は良寛の辞世の句であると言われるが、特攻隊の遺書 によく引用されたことでも有名である。

このように旅先での楽しみが増えたことも余録である。

もうひとつ、いま「歌仙」なるものに取組んでいる。友人と3人で、五七五の長句と 七七の短句を36句まで順繰りに付けかつ離して、連ねていく言葉遊びである。

これは芭蕉が得意としたもので、ルールは色々あるが私達はあまり四角四面ではなく 気楽にメールでやりとりして楽しんでいる。

時には自分の発想の貧困にガックリすることもあるが、「あんたはその程度やで」とい う内心の声に深く頷き、また格闘し、魅了される日々である。



大形順子 『 2011年8月刊 『バラの行方』 160mm×188mm/170頁



田口由子 『木守柿』 2012年10月刊 148mm×200mm/226頁



(遊民)

編集後記

日に日に暖かくなって、春の訪れを感じます。 桜の満開が待ち遠しい季節になりました。花 より団子派の私は、お花見が楽しみで仕方あ りません (笑)

今回の社員の趣味コーナーでは俳句をご紹介 しています。満開の桜の下、皆様も一句詠ん でみてはいかがでしょうか。 (みやまい)



今月の一品

超簡単!

遊文舎お弁当女子♪ 材料(約16個)

2枚(半解凍くらいが調理しやすい) 24人ネ肉

A ・コチュジャン (多いかな?くらいでちょうど)

・醤油 少量 ・塩

・コショウ 滴量

● 鶏ムネ肉を1cm幅くらいの薄切りにする。

ビニール袋に切ったムネ肉とAを全部入れ、 漬け込んでしばらく放置(放置時間なしでも可)。

3 ❷に片栗粉を入れ、揉み込みながら衣をつけ

◆ お肉が薄いので、油は2~3cmの深さがあ れば十分。約180度に熱した油で揚げていく。 それぞれ1分くらいで揚げあがるので、あとは盛 りつけて完成!